

特集

休日攻略二幕

混雑も食い渋りも、もう恐くない！
野釣り例会王2005日研AOYと
無敵のセットマイスターが魅せる、
野釣り&管理釣り場完全休日攻略!!

第一幕 出村誉信【浅ダナヒゲセット in 三島湖】

第二幕 天笠 充【浅ダナウドンセット in 羽生吉沼】

9

18

28

NEO-HERA PRO LEAGUE 2006 第二戦 戸面原ダム

34

石井旭舟 へらぶな浪漫街道

《第四十四回》北海道の大地に、野べらを求めて。雁里沼池

40

小池忠教 K'S FORM & STYLE

《Vol.7》最盛期の両ダンゴ 野田幸手園

47

中澤 岳 フィールド真っ向勝負

《Vol.9》怒濤の実戦、カツケ勝負！ 弁天F.C

52

杉山達也のSUPER SPLASH!

《ROUND.9》「爽快! 深宙の夏」第二弾 管理釣り場編 筑波流源湖

★AREA REPORT

58,66

小櫃川(千葉県)

本誌・伊藤洋一

60,68

真夏の北陸3県の釣り場

山本一朗

61,69

佐屋川寄せ場(愛知県)

後藤 誠

62,70

布目ダム(奈良県)

前田誠志

63,71

網道の池(熊本県)

河口正伸

134

竹とともに生きる。

《第35回》「山彦忍月」 山上薫誉

137

棚網 久の我流

《第七回》悲願達成! 丸沼で40上を釣る!!

143

田辺哲男&小林恭之の問答無用へらツアー

《Vol.9》凄腕集団グランドスラム7月例会に殴り込み! 椎の木湖

148

戸張 誠 関べら戦記

《第七回》7月例会 西湖・精進湖 “豪雨”

152

吉川ひとみのあっち こっち そっち♡

《Vol.8》ひとピー、快心の勝利…か!?
ショップ:上州屋上尾店 釣り場:武蔵の池

156

稲毛利夫 野釣り場地獄巡り

《Vol.9》夏の野池でダイエツ!? (埼玉県小川町の野池)

160

柴舟で「至蓮」「世志彦」火入れ・込み調整実施!

193

ダイワ精工の勝負作「枯法師」プレス発表会

194

岡田 清 Deep Side Angle

《Vol.34》【地合変動】 清遊湖(千葉県)

200

北川穂積 西の交友録

《第9回》ゲスト:石井宏哉 釣り場:才原池(広島県)

204

釣りの帰りに寄りたいたいお店

《file.20》埼玉県さいたま市【寿司割烹 松島】の特上寿司

206

釣果予想クイズ

208

フィッシングレディ

《今月のレディ》荒川美紀さん 清久大池

p.165~

釣り場割引 クーポン券

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼 上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監
柳生F.P 筑波白水湖 泉堰
逆井H.C 友部湯崎湖
水藻F.C 甲南へらの池
三和新池 狭山H.C 新座L.C
川越F.C 府中H.C 当麻池
芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしF.C
千代田湖・舟宿 千和
精進湖・釣宿 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原



▶今月の表紙

angler: 出村誉信&天笠 充

field: 三島湖&羽生吉沼

photo & layout: 本誌・里

へら鮒 9月号

Sep.2006 No.489

75

へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】

《第21回》玉網塗り直し 後編

81

ガチンコ道場

《第9回》マルキュークラブ対抗選手権大会 関東予選Ⅱ 清遊湖

88

都祭義晃 カリスマ伝説

《Vol.9》富里乃堰で鬼畜退治!?

92

石川裕治が伝説する王者の法則

《第9回》タナを凝縮せよ!! 円良田湖

99

江成公隆のトーナメント、復活への道。

《Vol.5.1》ヒゲ接待2 “NARIES”結成

106

すずめつつ へら鮒調査隊! 天野正由

《調査ファイル09》50cmを見せてちょうだい(泣きの1回) 奥多摩湖&榛名湖

110

水辺のプラネタリウム 吉本亜土

《今月の星空》「モリアオガエル」

114

最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ

《第四十三話》出撃! 漢タカハシ、亀山夏の陣。

119

へら鮒ブログ 西田美明

《第9回》「銀山湖・民宿こーちゃん」

122

母なる湖…琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦

《第16回》場所違い!?

126

野田幸手園新聞

162

ワクワク管理釣り場情報

171

小売店情報

176

芝学園釣研究部、精進湖で夏合宿!

★へら鮒BOX

里ちゃんの新米編集長雑記

情報発信基地

ボイス

コラム「日研だより」 日研広報部長・遠藤克己

コラム「日々是、勉強!」 ホワイト

コラム「紀州“想いの竹”のものごと」 中塚伸行

プレゼント発表

広告索引

編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えぶ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界別、Web運動企画！〜いいね！〜 (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.51〉

ヒゲ接待2 “NARIES結成”

最初にお詫びしておきますです。

先月アニキが予告したヒゲのセッティングについての記述が、

どこをどう探してもまったく見当たりません。

なんだか「やる気」がなくなったらしいです。

…接待ですから。

ちなみに、タイトルの「NARIES (ナリーズ)」とは、江成が新たに結成したチーム名で、アニキが敬愛する田辺哲男さんのブランド「NORIES (ノリーズ)」のパクリ&ダジャレです。リーダーは田辺さんでもマルキューのナリイさんでもありませんのであしからず…。

by 里ちゃん



祭のあと。

例年、7月は忙しいと書いている。

先月も、今回の原稿は怪しいと匂わせたが、ハナっから放棄する気ではなかった。7月11日の椎の木湖での取材は、ガチンコ平山氏、そして平山氏の釣友の須崎氏も参加してくれることになっていた。ブログには書いたが、ちょうどひと月ほど前に、岡田君の新しい店で一緒に飲んで意気投合していた僕は、再会が楽しみで仕方がなかったのだ。里ちゃんには悪いが、取材というよりもそっちがメイン。しかし、僕から提案して取材までやってしまった以上、原稿を放棄するわけにもいかない。なので、今こうしてMacに向かい始めた。

本当は今月もう勘弁して欲しいが、手遅れだ…。

7月に入った瞬間からの次元の違う忙しさは例年通りだったが、取材日まではなんとか踏ん張ることが出来た。クソ暑い中、1日にスポーツドリンクの2&ボトルを2、3本は飲み干すのがこのシーズンのお約束だ。食事を摂る時間がなければ、これに缶コーヒークラスされる。フラフラになりながら、毎日15〜16時間働く。冷静に考えれば、釣りに行く体力など残っていない苦なのだが、飢え死にするようなレベルの話ではない場合、人間を動かすエネルギーは栄養や休息だけでは語れない。精神力。僕には御褒美が待っていた。目先のかつたるさなどナンボのもんじゃい！11日は椎の木で爆釣じゃ〜!!

そして、責任感。気の持ちようで、「んなのやっつけられっかよ〜！」が、「オレがやらなきゃ」に変わる。8月から、自分が店のトップになることが正式に決まった。8名の部下と、5名のパート社員を路頭に迷わすわけにはい

かない。

祭のあとは寂しい。取材が終われば現実に引き戻される。忙しさもピークを迎え、まさに忙殺といった感じで、あっという間に時間が過ぎていく。昨年の僕なら、「会社に殺されちまうぜ〜！」と感じるところだが、今年はおまじりだった。7月末に、「今後の自分の店のビジョン」を、社内のと〜っても偉い人達に示さなくてはならないらしく、僕は資料作りに追われていた。日々の業務で音をあげている場合ではなかったのだ。帰宅してMacのスイッチを入れても、立ち上げるのは原稿を書くSimple TextでもウエブブラウザのSafariでもなく、ふだん家ではあまり使わないExcelやPower Point、Virtual PC上のネイティブWindows環境で作業すれば、職場のパソコンとのデータの互換性は全く心配要らないのだが、僕の古いMacでは重すぎて仕事にならないので諦めた。Mac使いは、こういう時不便。出版やデザイン業界ならいいが、ごく普通のオフィスでは肩身が狭い。中学生の頃の、6色リングのアップル社ロゴへの憧れからここまで来たが、へら鮎社とのやりとりで初めてメリットを感じたくらいである。使いやすいだのお洒落だの言ったところで、ただの変わり者でしかない。…、ハイ、脱線♡

適当にやっつたところで、もう決まっている人事。それでも僕は、燃えていた。一つ目の理由は、前任者がかなり優秀だったということ。二つ目は、プレゼン?にあたって、決められたフォーマットがない、ということ。どんな手法でアピールしようが全くの自由なのだ。

「一発おどかしちゃうかな〜」と思うのが人情ってものではないか。いや、それとも口々に準備もしない方が大物で、用意周到は凡人か…。

凡人を自覚する僕は用意周到の道を選んだ。子供の相手もせず、休みの日もずっとMacに向かっていった。原稿も気にはなったが、仕事優先。燃えていた僕は、「これさえ終われば何とかなるさ(ならねーよ)」とお気楽に構えていた。20日の休みも早朝から夕方までMacに向かっていた。

「あー一息で終わるぜー」

その時、職場からの着信。支社方針の大転換を知らせる電話だった…。

この瞬間、僕が用意した資料は全てパー。前提がまるっきり変わってしまったからだ。やり直す時間ももうない。…でもいいか。ヤル気もいけれど、「所詮、歯車」ということを忘れるところだったから。と、今度は里ちゃんからの着信。

「アニキ、たのんますよ！ 原稿、もうほとんど出てくるんでしょね？ もうそろそろ買わないと本当に締め切り間に合わないっすよー」

「あー！ 原稿もやらなくちゃ…ネ…」

しかし、20日の晩はさすがに頭の切り替えがうまく出来なかった。原稿は翌日以降に回すこととした。

21日、出勤。忙しさのピークはとっくに過ぎていた筈だったが、運悪くハマる。帰宅後、Macに向かったが、気付いたらマウスを掴んだまま寝ており、すでに朝になっていた。

22日、出勤。なぜか昨日よりいちだんとハマる。体力の限界を感じる。しかし帰宅後も寝るわけにはいかない僕は、満腹で睡魔が襲ってくるのを避け、夕食を抜く。アホだな。

23日、朝食も摂らずに出社ギリギリまで原稿。もちろん寝ずに出勤。忙しくて昼食も抜き。最悪のコンディション。23時帰宅。そのままベッドに倒れ込む。と、このように徹夜は、結局時間の無駄使いになることが多い。でもあの酔けさは捨て難いんだよね…。

宝探し。

6月中旬のことだった。前述したように、僕はガチンコ平山氏、須崎氏、そして白井氏と、チャンプ岡田君の店で飲んだ。職場の仲間以外と飲むのは久しぶり。それも釣り仲間と釣りの場以外での交流となると、もっとレアな出来事である。とても素敵な夜だった。

ガチンコ平山氏とは、面識がないわけではなかったが、それまで釣り場で数度お会いしていただけ。須崎、白井の両氏に至っては、実は初対面であった。しかしそんなことは関係ない。共通の趣味を持つ者同士、盛り上がりやすいわけがない。時間はあっという間に流れた。そうそう、須崎氏とはブログ上で何度か意見交換をしていたために、全く初めてという気がしなかったと思っていたのだが、そうでないことに家に帰ってから気付いた。氏のブログのアバターがご本人そっくりだったのだ。どおりで違和感が全くなかった筈である。

僕達4人は所謂「釣り談義」というヤツで、延々と8時間も喋った。あたかも水中を見て来たかのように饒舌に専門用語を連発する僕達に、隣のテーブルの「普通の人間」は呆れていたに違いない。いや、怪しがついてたといふべきか…。「タンゴ」だの「バラケ」だの「タナ」だの「ヒゲ」だのという一般社会ではおおよそ意味が結びつかない単語が飛び交い、しかも、大の大人が口角泡を飛ばして激論しているのだから、怪しくないはずがない。

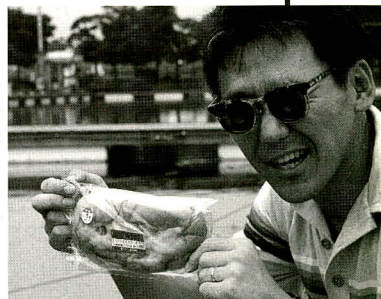
会話の詳細は書き切れないが、僕達4人の共通認識にはやはり、「ないバズルを空想する楽しさ」であった。へら語を喋れるわけじゃない、絶対の正解はないと言える以上、誰にでも自由に水中を語る権利がある。老若男女、

初心者、上級者をも問わない。これが、へら釣りの魅力のひとつでもある。夢を生む。誰にでもチャンスがあるのだ、と。もちろん生き物相手に理詰めだけでは通用しないことは、その場に居合わせた全員が知っていた。しかし、「夢」なのだ。月イチだろうが、週一だろうが、半年に一回だろうが関係ない。誰も知らない方程式を見つけることが出来れば、スーパースターをもブチ抜くことが出来るのではないか…？ ロマンと言いつつ換えてもいい。100%の理詰めが通用しないと分かっているからこそ、理論偏重。

スーパースターをもブチ抜く方程式がまだ埋もれているかどうかはともかく、僕の記憶では「誰も知らない(やらぬ)」ことをやって、ぶっちゃぎていった人」は、結構いた。手前味噌だが僕の例を紹介しよう。1993ジャパンカップの加須予選。超短バリスセット、オカメ。セッティングもクワセも、誰も気付いていなかった。一緒に試釣した大竹君、僕、そして事前に情報を入れたK氏とでワンツースリー。生意気だが、「結果はやる前から見えていた」と、当時の僕達は思った。さあ、皆さんも宝探しに出かけよう。



江成が持ち込んだ、跳ね上げ式の偏光サングラス。水中の状態を見極めるには重要なアイテムだ。特に浅いタナにおいては、へらが逆立ちするか否か、ハッキリ見えるのは大きなアドバンテージとなる。だが、それにしても微妙な雰囲気か漂う…。アニキ、それって？「一日掛けていたら、重くてとっても疲れるフレームは、10年モノでメーカー失念。偏光レンズは途中で二コンかどっかに変更。釣行の際には、絶対に池に落とさないように！ お問い合わせは…ウチの近所のメガネ屋さんまで！」…この人の頭の中はこんなばっかりである。皆さんはこのパロディ分かります？ ちなみに、アニキが持っているのは里から取り上げた昼食用のパン。原稿料からきっちり引かせて頂きやす…(怒)



不精ヒゲを剃らずにきた江成。たっぷり寝た(寝坊した)証拠である。「だって、ヒゲをやるのにヒゲ剃っちゃったら釣れないべ？」先月と全く同じ言い訳すんなっ！

取材のあとには忙しさを釣りのことはほとんど頭から消えていたが、仕事が一段落したあと、ふいに寂しい気持ちになる。

「楽しかったなあ…」

そんな時、平山、須崎両氏からの電話は嬉しかった。時間を忘れて話し込む。二人とも尋常ではないくらいに熱い。自分でもかなり熱い方だとは思っていたが、この二人にはとてもかなわない。人生の大先輩をつかまえてどうかと思うが、昔の僕と大竹君を重ねてしまう。研究熱心な両氏から、現在結果が全く出ていない僕への質問攻め。おだてられてつい、調子に乗ってべらべらと喋る僕。思いつ度にも恥ずかしくなるのだが、さすがに僕も火が点く。もともともと、両氏と釣りをしたい。すなわち釣行回数を増やしたいという気持ちに直結してくる。しかし…

「江成君には、今のペースを崩さずにメジャーを獲って欲しいね。そうじゃなければ連載の価値がないでしょうよー！」

僕のブレスをすぐさま見抜いた平山氏の一言。大人である。とりあえず僕は、ウキ作りにもエネルギーを向けようか。いや、どうせ作らないんだよナ。前からやるやるって言うてるのにいまだに再開してないし。

「江成君さ、次回の取材も時間が合ったら便乗させてもらっていいかな？」

平山氏は読心術に長ける。

「もちろんオッケーですよ。なんなら来年は須崎さんと三人でクラブ対抗でも出ますかー！」

「ちゃんと月例会やってるクラブになってないトマズいんだよ？」

「じゃ、毎月例会やりましょう。取材も兼ねて。開催日は不定期ですけど(笑)」

「了解。エナリーズ誕生！」

「エナリーズは動弁して下さい…足引っぱりそうなんだ…」

「エナリーズでいいじゃんヨオ！ 最高じゃん？」

「ええ〜？ じゃあ…田辺さんのブランドをパロってナリーズはどうでしょうか？」

「それもイイ！ よーし決まりだ！ Tシャツ作んべよTシャツ！」

「どうせならロゴもパクりましようね！ 里ちゃんには根回しお願いしときますんで！」

「おおよ！ 商売にするわけじゃなし、田辺さんだって笑って許してくれるっぺよー！」

「ですよねえ？」

「もうひとつ。どうしても入れて欲しい言葉があるんだけどさ、いいかな？」

「どろろどろぞ？」

「理論なくして釣果なし！」

平山氏はものすごく熱い。自宮で磐石の生活基盤を築き上げている氏は、時間的にも経済的にも、一般サラリーマンよりは遥かに自由が利く。端から見ればとても恵まれた環境にある。しかし、「それ故に見失っていたものがあるのではないか」と氏は言う。氏の自己分析はこうだ。「第一に、周りより多い釣行回数にまかせ、体で憶えるには限界があったという事。第二に、有名人と知り合うチャンスムも多く、徹底的に見学して盗もうと試みたが、思うように釣果は伸びなかった。なぜなら、比較の基準となるべき自分の釣りというものを把握していなかったため、名手との差を真に理解出来ていなかったからだ。」…「マニアックな」と形容したくなるほどの、理論追求派誕生の経緯だ。

先日久しぶりに乗った電車で、どこかの予備校の中吊り広告を見つけた。

「理解なき暗記には限界があります。」

…とかなんとか書いてあった。確かに全て丸暗記は辛い。覚えるための理解なのだ。テストでいちいちその方程式の根拠とかって考えていたら時間が足りないし、そんなヤツはいない。釣りだってさうだ。「T投→投考えて」という言葉をよく聞くが、真実だとしたらそれは無意識下で行われていることではないのか。カツケばっかり夢中でやってきた時代を振り返ると、「考えているという自覚を持った状態」で、あのリズムは無理だと感じる。

頭で理解し、体で覚える。指先が勝手に動き出す。そういうことではないのかな、と(あれ、去年も書いたかな?)。僕は理論大好きとは言っているが、実際の釣りはかなり「ラフ」。

見たらきつと笑っちゃうと思う。ハハハ…

平山氏の釣友の須崎氏も、平山氏に勝るとも劣らない理論探究派である。須崎氏の面白いのは、釣り以外のジャンルでは「世の中理屈じゃない」と、氏のブログで公言しているところだ。ちなみに、両氏からの電話は、どちらも所属会や愛好会などでの優勝報告だった。僕の思ったとおり、この人達は絶対に高いステージに上がる。僕はとんでもない人達と知り合いになってしまった。来年のクラブ対抗では、足を引っ張らないよう頑張りたい。

平山氏、須崎氏とともにエナリーズならぬ「ナリーズ」結成を高らかに宣言したアニキ。「自作自演」のように短命に終わらなければいいのだが…



平山氏、須崎氏とともにエナリーズならぬ「ナリーズ」結成を高らかに宣言したアニキ。「自作自演」のように短命に終わらなければいいのだが…

「浅ダナスタイル・ワイドプラス」

番	羽根	カーボン径
七番	10	7.5
八番	11	8.0
九番	12	9.0
十番	13	10.0

※トップは内径1mm(1/16インチ)ボディは5.5mm径一本取り
1本¥6,300 (税別)

杉山作

発表以来、絶大な支持を得ている「浅ダナスタイル・ワイド」のビッグサイズ版、登場。
バランスはそのままに、サイズ、ボディ、トップにボリュームをプラス!

取り扱い店《五十音順》
 埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)
 埼玉・入間 へらの三水 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 謝仙人 (☎044-287-7470)
 東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

62枚。

先月に引き続き、椎の木湖での取材。結果から書くと、僕の釣った枚数は先月と全く同じ62枚だった。ロクニ釣れなかった。…という駄洒落は無視していただくとして、総重量は前回を下回った。型が悪かったのではない。計りカタが悪かったことに、今回気付いた。自動検量機はリアルタイムで面白く、魚の保護に大いに役立つのはわかるが、あまりにも差が出てしまうのでは競技としてどうなの？という気もある。取りこんだあと、乗せ方に気を遣って釣りのリズムに影響が出る。もっとも、そんなことを気にしなくていいくらい数を釣ればいいのだが…。

ゲストを呼んでおきながら、今回の取材も寝坊した。目覚ましは鳴ったと思うが、二度寝してしまいました。携帯電話を枕元に置き忘れた僕は、里ちゃんからの着信に気付くことが出来なかった。僕はとんでもなくだらしない人間である。今回は、「いい運転」をしたところで取り返しのつかない寝坊。みんなより一時間遅れでエサ打ちを開始した。

一時間を差し引けば、ヒゲのスベシャリスト里ちゃんと枚数的には大差ない釣果。そういう意味ではとてつもなく満足してもいいのだが、この日の釣況としては、セツトならウドンだったろうし、渋いなりにも両ダンゴの方がまだ釣りやすそうだった。これは、「ヒゲを自分の切り札に」と感じていた僕にはとてもショックな出来事であった。思い描いてきたイメージ通りの釣りが出来なかったことよりも、トーナメントにおいて自信を持てる攻め手のひとつを奪われたようなショック…。僕はどこで間違えたのだろうか。もう一度冷静に振り返ってみよう。

前回、「ダンゴ」地合で迷いなく打てるセットだと、僕はヒゲセットを結論付けた。ターゲットを中間に設定することで、結果として上下どちらを食ってもいいし、ヒゲはカスミでセツト特有のどちらの力だかわからないという不安も自動回避出来る。と、いいことづくめのヒゲセットだが、ここに引用した部分は今でも問題ないと思う。問題なのは、その前提にあった。

「ダンゴ」で問題なく釣りになる高活性時」において、それでもなお存在するであろう活性の固体差を利用して、初めてダンゴを凌駕するセツトとなるのだ。で、今回の取材の釣況もそうだったが、トーナメントの予選が「ダンゴ」で問題なく釣りになる高活性」である可能性は…残念ながら極めて低い。

岡田君の店で、平山氏がヒゲのスベシャリストである白井氏に言った言葉を思い出す。「白井さんさあ、ヒゲはもういいんだって。本気でトーナメントで予選通りたかったら、ウドンも練習しないと。それしかやらないってのはオレは好きじゃないけどさ、トーナメント限定でいいってことなら答えはもう出てるでしょう？ 99%がウドン組だよ。ヒゲの時もあるだろうけど、セツトでどっち練習するんだって言ったらウドンでしょうよあー！」

この日、アホな僕はウンウンと頷いている…。そう、ヒゲの使い時は多くはないから、トーナメントでセツトといえば圧倒的にウドンを選択する釣り人が多いのだ。もしかしたらヒゲ地合であったとしても、ユーザーが多いためにウドンでの結果が残りやすい面もあるだろうが、ウドンの可能性もまだまだ未知数だ。僕を含め、多くの釣り人がまだ到達していない領域が存在するのは間違いない。例えば今年のG杯幸手予選。前半の僕はウドンセツト。前半終了間際、ヒゲ組がベースを上

げてきたのでウドンからヒゲに転向と以前に書いたが、ウドンではどうにもならなくなつたという自覚があつてこそだった。「どう」どうにもならなくなつたのか。アタリは遠いし、アタっても激カラ。固形物に対する反応が劇的に悪化したと僕は判断していた。後半戦、僕はヒゲで好感触だったが徐々に失速。予選通過はならなかったが、上位ほとんどがヒゲセットであつたことに、作戦変更は間違いないと感じていた。しかし…優勝はただひとりウドンセツトを買った天笠 充氏。ウドンでも、「どう」にかなつた」ことを証明してくれていたのである。

天笠氏しか知らない領域はとてつもなく除外。G杯幸手予選の午後、一般アングラーの知識と経験では、「ヒゲセツト」がベストチョイスであつたのは間違いない。ここでもう一度考えてみたいのは、この日の「ヒゲセツト」が、「ダンゴ」を凌駕する系だったかどうかだ。つまり「ダンゴ」で問題なく釣りになる高活性時」だったかということだが、そんなフケはない。波つてからの、いわゆる「普通のセツト地合」だった。ではなぜ固形よりヒゲセツトの方が良かったのか。僕が思うに、へらの個々の活性は高かったが、量が足りなかったのだ。そのため一定量の寄りをキープするためには、食わせるための締まったタツチのダンゴは打てない。ボンになるのは必然だ。しかし今度食わせるべき志がない。で、ウドンを食わせようと試みるが、一般人の技量では、活性の高いへらに固形へ反応させることが出来なかつたし、反応させられてもぶつかりをかわすことが出来なかつた。そこで皆、カスミとしてヒゲを仕込むことになった。…これって、ウドンで困った時だけヒゲにスイッチで十分用が足りるとい話にならないか？ 爆釣を狙ったヒゲの使い時なんてものには、滅多に出会えない。ならば意識して練習すること

もない。やはりウドンセツトをベースにするのが正解だろう。いや、きつと正解なのだ。この日の「ウドンではダメだ」という判断が間違っていることを知っていた釣り人が、少なくとも一人はいる以上…。

今回の椎の木湖取材での渋さもすでに書いたが、ダンゴの方がよっぽど釣りやすいという印象を持った根拠を書いておこう。平日だけに、一人当りのへらの量は十分にあつた。しかし、個々のへらの活性が低い。こういう時、エサがバラケ過ぎればへらはポーツとしてしまうため、エサは締まった方向へ進んでいく。休日ならここで寄りが保てなくなるためセツトへの移行を余儀なくされるが、平日はその心配が必要ないケースが多い。まわりのウキの動きを見ている限り、今回の取材もそうだったようなので、ダンゴで釣り通すことは可能だったろう。もちろんこんな「無理ダンゴ」状態では、以前に「脳内セツト」で書いたように、遠巻きのへらを狙った方が力ウントが伸びる可能性が高い。ここで、セツトならウドンと感じた根拠も書いておく。粒子を散らし過ぎれば、それで満足してしまう状態であるから、締まったエサを打っている。そのエサとヒゲがマッチするだろうか？ ヒゲがカスミとして同化するための（隠れるための）煙幕が必要だ。必要最低限の粒子で下バリを食わせようと思えば、同化ではなく、逆のアピール路線だ。粒子の一部として下バリをへらに見せる必要がある。すなわち固形物であるウドンだ。現在のヒゲセツトのメカを考えれば、バラケはシメ切れない。しかし、粒子を吸い切る勢いの活性を持つへらもいない。たまたまもう少しだけシメてみる。すると、たまにアタるが、シメ切れず甘いやらけへの弱々しいカラッソだろう。なぜなら「ヒゲに反応はない」のだから。

午後からは活性が若干上向いた。バラける

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの鮎会
2. ぐりへの鮎会
3. ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟 (東京都江戸川区)
03-3613-2727
佐伯釣具店 (神奈川県川崎市)
044-911-3722
SANSUI川づり館 (東京都渋谷区)
03-3499-5025
フィッシング中原 (神奈川県川崎市)
044-711-8266
鮎仙人 (神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

予定変更。

先月号で僕は、「ダンゴを凌駕するヒゲセツト」のセッティングについて、「次号で触れる」

蛇足。今回の椎の木、間違いなく両ウドンで決まった筈だ。試してはいないが確信。寄りほつとも保て、かつ粒子酔いという状態。最高の舞台である。…そういえば先月号、バリバス覇者・太田武敏氏をゲストに迎えての両ウドンの特集。里ちゃんはいよいよ。偉い。感動した!

ムクトップ+先端だけパイプ)

・振り込み方法と仕掛け(ハリス)の張りの関係

・自作チャカムクを用いた速攻を検証(PCムクトップ+先端だけパイプ)

・ヒゲの濃さと落下速度、煽りとエサ持ち

・ヒゲセツトに用いるウキのサイズの基準

・ヒゲの経時変化

・軽いクワセのテンション確保、超短ハリスの有効性

・(同調ではなく)

・何のお役にも立てないメモではないが、僕

の原稿の字数稼ぎには役に立つ。

・カスミであるヒゲであっても有効な粒子感

かもしれないので、項目だけ一部紹介してお

きたい。エサの配合に関する項目はないし、

と予告した。予定では今回の取材で爆釣し、

「表紙にもなり」、得意げに大ノーガキをぶち

かます予定でいた。が、失敗。セッティング

以外での細かい注意点などもだいたいリストア

ップしてはいたが、ヒゲセツトとは何なのか

という大筋は書けたと思うし、ヒゲは対ト

ナメントの本線ではないと感じてしまった今、

ハッキリ言ってやる気がなくなつた。ので、

省く(本当は時間切れ?)。ただ、僕がどんな

ことを書く予定だったのか知りたい方もいる

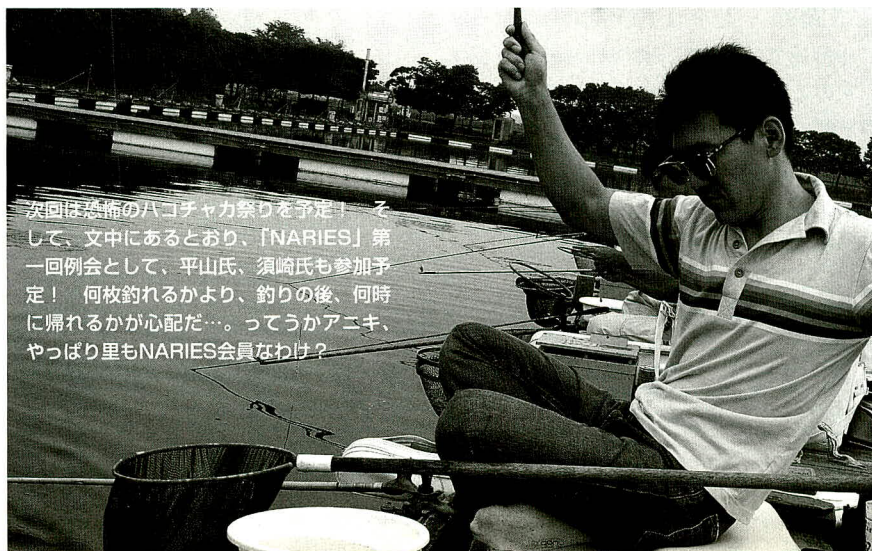
カツツケ!

今回はカツツケのダンゴを取り上げる予定。今年本来のテーマ通り、ちゃんんとセツトばかりやっていたので、今年初のダンゴになるはず?

次回を逃すと、秋のメジャー予選シーズンでまたセツト漬けになってしまうので、里ちゃんには悪いが強引にやらせていただきます。

「原稿終わったー! 次はおもいきり釣り込むぜえ」

22日に始めて、24日に脱稿。実質二日は新記録。途中からかなりハイテンションとなつた僕のトマホーク級の駄洒落がウザいと思いますが、御容赦を。ちなみに全部分かつたかな? ざっと読み返してみたら、前頂の「予定変更」と「祭のあと」にはないですけど。ちなみに今回は、NARIES第一回目の例会となりますので、もちろん平山・須崎の両氏も参加予定。いったい誰が漁師になれるのか? 乞う御期待!



今回は誌面のハコチャカ祭りを予定して、文中にあるとおり、「NARIES」第一回例会として、平山氏、須崎氏も参加予定! 何枚釣れるかより、釣りの後、何時に帰れるかが心配だ…。ってうかアニキ、やっぱり里もNARIES会員なわけ?

へら鮎 9

Monthly fishing magazine herabara

真夏の激戦を吹き飛ばせ!

混雑も食い渋りも、もう怖くない!
野釣り例会王2005日研AOYと
無敵のセットマイスターが魅せる、
野釣り&管理釣り場完全休日攻略!!

第二幕 天笠充 (浅ダナウドンセット in 羽生吉沼)

第一幕 出村誉信 (浅ダナヒゲセット in 三島湖)

特集 休日 攻略

一幕



深宙両ダンゴで攻める。

ヤワ・ネバ・ボンタッチで、軽く、深いタナまで持つエサが、簡単につくれるベースエサ。チョーチン本来の、しっかりとウキを入れていく釣りはもちろん、なじみ際の早いアタリを積極的に攻めていく釣りにも対応。最後に加える1カップを、特長のあるエサにすることで、様々な釣況に合わせていきます。

●天々(てんでん) 400g スライダーチャック袋

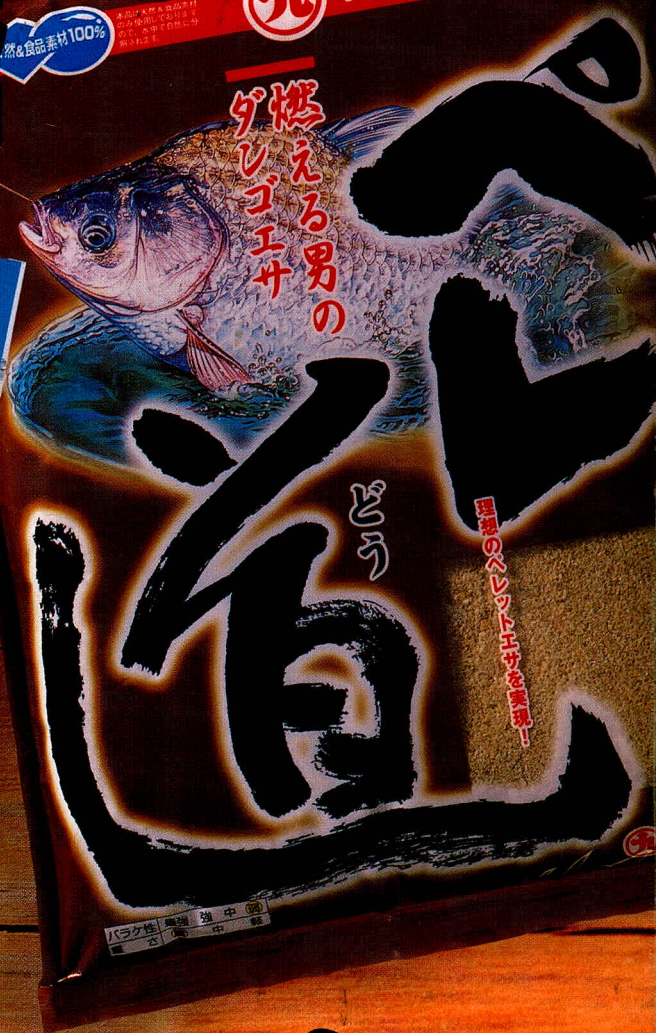
最盛期。2つの主役。



天然食品素材100%



マルキュー



ペレット系両ダンゴで狙う。

ペレット系独自の圧倒的な集魚力、まとまりのよさ、重さを備えたベースエサ。魚をウフスらせず、タナをつくりながら強力に寄せ、いいアタリで釣れるうえ、良型が揃う可能性も高まります。ペレット系の弱点だった、経時変化によるネバリを抑えた、つくりやすく扱いやすいダンゴエサです。

●ペレ道(べれどう) 600g スライダーチャック袋

丸 マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県浦川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・蒲川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909

ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/>

丸 マルキューへら鮎メールマガジン、大好評配信中!!

マルキューでは、耳寄り情報満載のメールマガジンを無料配信します。
配信登録の方法など、詳細についてはマルキューホームページをご覧ください。→

<http://www.marukyu.com/>

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
平成18年9月1日発行

2006 9

休日攻略二幕

出村蒼信 天笠充

定価 1000円 本体九五二円

(株)へら鮎社

雑誌 07907-9



4910079070964
00952